

# Our Life 112 号

静岡福祉文化を考える会

代表 平田 厚

〒420-0841 静岡市葵区上足洗 3-7-15-5

Tel & Fax: 054-246-1486

編集委員 家本豊 古屋貴彦 河野恵介

平田厚

## \* \* 内 容 \* \*

- コミュニティ活動支援協力から学ぶ“居場所”立ち上げのプロセスと「地域総合型学習」 ..... P.1
- 助成事業決定を受けて、平成29年度本会活動計画拡大し「静岡発 福祉文化の創造」持続 ..... P.2
- 福祉コミュニティ再構築と支え合いの提言をもとに調査研究活動に取り組む ..... P.3  
「居場所とはなにか」をテーマに9月30日公開型研修会開催
- 事務局日誌拝見 福祉文化実践活動をご一緒にしませんか？？ 編集後記 ..... P.4

## 福祉コミュニティ活動支援協力から学ぶ

## 「地域総合型学習」と“居場所”立ち上げのプロセスへの関わり

本会では、今年度の活動テーマを「居場所」とし、ある程度、コミュニティ組織の中で、実践活動を通じて課題を浮き彫りにし、「静岡発 福祉文化の創造」に向けた活動に取り組もうと、4月より始動している。

その一つが、2年目を迎えた、焼津市内で住民主体の「地域総合型学習」（この用語は、本会が、7年間の県委託事業から生み出したもので、世代や領域を超えて、地域の福祉課題を学習し、住民自ら、課題改善・解決に向けて実践活動に移行しようと試みる学習プログラム）の取り組みが、「焼津市港地域ささえあい講座」。

もう一つは、90世帯の小規模の町内会が5年の経過を得た、「いかずい北川原」の居場所。「いかずい」とは、焼津の方言「行きましょう」の意味を持つ。

### 「焼津市港地域ささえあい講座」

約5,000世帯の中学校区（公民館単位）で、昨年度に引き続き、自治会からの推薦や自発的に参画した実行委員23名で実行委員会を組織化しスタート。「楽しく学ぶ」「公助ありきの地域づくりではなく、共助で何ができるか、話し合いによる解決学習（ワークショップ）」「管内の人財をもって講座を運営する」を着眼項目に挙げて、9/2, 10/7, 11/4, 12/2（いずれも土曜日 13:00～16:30・焼津市港公民館・電話 054-624-8855）で全4回開講。本会は、実行委員としての参画と、「若者発 ご近所福祉かるた」を活用して、「ワークショップ：ご近所福祉あれこれ」を支援し、併せて、「かるた」の活用普及に努める。港公民館には、平成27年度に4セットの「かるた」を提供している。関心のある会員は、ぜひ支援に加わってほしい。

### 「いかずい北川原」の居場所

この地区の「公会堂」は、これまで、管理的規定の基に維持されていた。住民から維持費を徴収していることから、「もっと、日常的な活用方法はないか」「若い世帯が増えてきたこの地域の交流の場にしては」との意見を基に、5月28日に開所式を行い、すでに2か月が経過した。

毎週原則火曜日 10:00～15:00、これまで、毎回20名の参加者が和やかなひと時を過ごす。ここでも、「かるた」の提供や資機材、運営ボランティア・助言等に関わっている。



# 助成事業決定を受けて、 平成 29 年度本会活動計画拡大し、「静岡発 福祉文化の創造」持続

平成 29 年度は、本会 21 年間の実績を基に、改めて活動の原点に戻り、「福祉を文化にする、静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）とは何かを検証する。このたび、「ふじのくに未来財団助成事業」「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業」（第 111 号広報誌で紹介済）「あしたの日本を創る協会助成事業」がそれぞれ決定された。そのため、5 月 21 日に開催した「本会全体会」の計画を見直し、活動を拡大して取り組む。

支え合うご近所における居場所をテーマに、生活圏域における「地域課題」を掘り起こし問題提起をする取り組みを、「生活会議」と置き換え、実践活動に取り組む。県民の意識と実態を明らかにし、福祉コミュニティの構築に県民一人ひとりが関わることの重要性を明らかにする。本会活動を広く意見を求めるために「共創社会研究会」を設置して、課題提起をしていく。主には、福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業—ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言—を課題とする。これからの中の福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、既存の「居場所」の現状把握と、県民の意識と実態はどうかを把握し、県民に、これからの中の福祉コミュニティのあり方を問い合わせる機会を創り、改めて、「家族機能」の再認識を持つ機会とし、「真の居場所」を問う。拡大した活動内容の主なものは、

## 1. 「共創社会研究会」の設置と運営

### (1) 開催時期

- 第 1 回 (09 月 09 日) 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室
- 第 2 回 (11 月 11 日) 静岡県総合社会福祉会館 102 会議室
- 第 3 回 (01 月 13 日) 静岡県総合社会福祉会館 104 会議室
- 第 4 回 (03 月 10 日) 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室

### (2) 構成

本会会員（5 名）、県内実践者（3 名）、社協職員（2 名） 計 10 名程度

### (3) 協議内容

- 研究会の位置づけと方向性、地域の現状、課題、調査結果考察
- 調査実施要項、調査個票、調査実施、調査結果考察
- 実践地区検証、公開型研修会結果考察
- 事業全般考察（提言）

## 2. 「現場視察研修」

最近開所した県内 6 地区の居場所実践地区を検証し、プロセスとともに課題解決に向けて取り組み、報告書にまとめる。

## 3. 「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくり」報告書作成

A4 版、60 ページ仕立て、100 部作成とし、主な章立ては、「はじめに」「事業取り組みの背景」「公開型研修会からの成果」「実践からの学び」「調査結果から見えたもの」「共創社会研究会論議」「提言」「資料編」の組み立てを予定。

## 4. 「広報・啓発活動」

『Our Life』の発行は、当初 4 回発行であったが、改めて、年 6 回、A4 版、4 ページ構成、上質紙印刷、200 部発行、今年度取り組む「居場所」をテーマとした課題提起、地域・団体との連携の状況、各地区から寄せられた活動レポート紹介等を掲載する。

# 福祉コミュニティ再構築と支え合いの提言を基に調査研究活動に取り組む テーマは、「居場所ってなに？ その意識と実態調査」

「静岡福祉文化を考える会」は、この21年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

これまでの調査研究活動を振り返ると、①「共働きに関する調査」②「私たちにとって、地域とは何か—その1—意識と実態調査」③「私たちにとって、家族とは何か調査」④「父親に関する調査」⑤「ボランティア活動実践者意識調査」⑥「大人を対象とした生きがいと就労に関する調査」⑦「青少年の生きがいに関する調査」⑧「地域とは何か—その2—意識と実態調査」⑨「子どもと社会環境に関する意識調査」（継続調査）⑩「子どもと社会に関する意識調査」（総括）⑪「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」⑫「長寿者の生きがい、その意識と実態調査」（静岡県共同募金会助成事業）⑬「日常生活と福祉情報に関する意識調査」（静岡県委託事業）⑭「長寿社会に関する県民意識と実態調査」（静岡県委託事業）⑮「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとは何か本音に迫る調査」（静岡県委託事業）⑯「地域と私の居場所その意識と実態調査」（静岡県委託事業）⑰「家族ってなに その意識と実態調査」（静岡県委託事業）⑱「長寿者とつながる ホッとするご近所づくりその意識と実態調査」（静岡県委託事業）⑲「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」（静岡県委託事業）⑳「若者の地域参加その意識と実態調査」㉑「ご近所福祉その意識と実態調査」と、「21のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。通算22年目となる今年度は、これまでの展開を継承しつつ、「居場所ってなに？その意識と実態調査」として実施。

- \* 調査項目は、(1)基本属性、(2)住民の生活状況、(3)地域との関わりの意識、(4)地域との関わりの実態、(5)地域を取り巻く望ましい生活環境、(6)地域の意識・実態、(7)提言（自由意見）の7項目とする。細部は、「共創社会研究会」で具体化する。
- \* 調査の展開：(1)調査実施期間（9月～10月）、(2)入力期間（10月～11月）、(3)分析・考察（12月～1月）、(4)公表（2月）を予定。
- \* 協 力：若者発“居場所”あり方研究会 共創社会研究会
- \* 対 象：静岡県内の10代以上の県民対象（年代・世代・領域等を考慮）
- \* 回収目標：約1,000名程度
- \* 調査依頼／配布方法：(1)会員（現在24名）、(2)若者発“居場所”あり方研究会、(3)関係団体、(4)企業

## ●参加者募集!!

## 「居場所とは何か」をテーマに9月30日公開型研修会開催!!

本会の今年度の研修会は、当初2回を予定していたが、助成事業が決定されたことから、第2回目の研修会を、新たに、9月30日（土）13:00 静岡市葵区駿府町 県総合社会福祉会館601会議室で開催することになった。

### ★研修テーマ：ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりを拓く★

研修会の組み立ては、

- (1) 基調報告……………「居場所」とは何か、今日、居場所が社会的な課題となっている背景を正す。
- (2) 実践活動に学ぶ……県内の「居場所」の取り組みについて紹介していただき、「ワークショップ」につなげる。
- (3) ワークショップ……「集める居場所」から「集まる居場所」を探る。  
社会が求めている居場所について、参加者同士で、議論を深め、それぞれの地域性を基に、「真の居場所」とは何かを議論し合う。

## 事務局日誌拝見（7/5～8/30）

- 07/08 ふじのくに未来財団助成事業プレゼンに関する連絡調整（PowerPoint）  
07/09 本会、静岡市表彰に関する不足資料の提供 会計に関する連絡調整  
07/11 港地域ささえあい講座（焼津市）第1回実行委員会開催（河野出席）  
ふじのくに未来財団助成事業プレゼンに関する連絡調整（PowerPoint）  
07/12 焼津市地区会食サービス「あじさいの会」7月例会にて、「ご近所福祉ジャンボかるた」を紹介し、交流を深める（参加者55名）  
07/13 「あしたの日本を創る協会」との助成申請に関する連絡調整  
07/13 ふじのくに未来財団より、37万円の助成申請は書類審査合格、7/19までにPowerPointデータを事務局に送信の連絡有。7/20 14:30 プrezent出席連絡有。  
07/18 ふじのくに未来財団助成事業のプレゼンに関するPowerPoint最終作成作業  
その後、ふじのくに未来財団にPowerPoint提出  
07/19 7/20 プrezent用関連資料（事業展開表）作成作業  
07/20 13:00 ふじのくに未来財団助成事業プレゼン出席  
07/21 「あしたの日本を創る協会」より、5万円の助成決定通知書届く  
07/22 今後の事業計画の再検討作業実施  
07/24 「あしたの日本を創る協会」に、助成決定のお礼と資料配布状況報告  
掛川市上内田地区研修打ち合わせの際、「ご近所福祉その意識と実態調査結果」の話題が出る。  
8/10 研修会当日の資料に紹介する。  
07/25 掛川市社会福祉協議会より「ご近所福祉その意識と実態調査報告書」提供依頼の連絡有。  
07/27 事務局に、ふじのくに未来財団助成事業決定通知届く。  
07/29 本会事務対応について協議。「ふじのくに未来財団助成事業」、「あしたの日本を創る協会」助成決定、県社協ふれあい基金助成等の今後の運営について、確認をする。  
07/30 「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成」「概算払い請求書」提出  
07/31 「ふじのくに未来財団助成事業」「概算払い請求書」提出  
「あしたの日本を創る協会助成金」「県社協ふれあい基金助成金」振込確認済み  
08/01 平成29年度本会活動計画の見直し作業実施。第2回実行委員会関連資料作成作業（～8/5）  
08/06 第184回委員会開催（本会活動進捗状況確認と修正事業確認）  
08/07 共創社会研究会設置に関する協議、居場所実践地区開拓作業  
08/20 調査研究活動に関する連絡調整  
08/26 第185回運営委員会開催、港地域ささえあい講座第2回実行委員会開催、公開型研修会企画作業及び広報啓発作業実施  
08/30 Our Life 112号発行、関係方面に発送。

### ●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか？？

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災（1995）翌年度の平成8年9月1日に発足し、平成29年度に22年の節目を迎えました。平成29年度は新たな節目に向かい、「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合型学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

- ◇ 会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円
- ◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市葵区上足洗3-7-15-5  
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & FAX: 054-246-1486

### 編集後記

平成29年度の活動も5か月が経過したこの時期に、福祉コミュニティの再構築への課題解決に向けて、このたび「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業」「ふじのくに未来財団助成事業」そして、「あしたの日本を創る協会助成事業」から、それぞれ、本会の活動に多大な評価をいただき、事業助成の決定をいただいた。後半の事業をさらに加速させながら、「真の居場所」への提言ができるように、「共創社会研究会」の設置、「居場所実践地区の検証」等、活動を拡大させて成果が挙げられるように努力をしていきたい。